

資料番号	該当ページ	修正・指摘事項	回答・対応内容
参考資料3	16	最下段の追記箇所について、水質の視点から完全混合を仮定できたとして、ガス中のN2O濃度は異なるのでは？	<p>ご指摘のとおり、攪拌機の近傍と、離れて空気排出がない地点とでは、ガス態N2O濃度に違いがございました。一方で、空気排出のある地点(攪拌機の近傍)2箇所のガス態N2O濃度は同程度であったため、水中の溶存態N2O濃度が一定であれば、攪拌機により排出される空気中のN2O濃度は一定と仮定できると考えております。</p> <p>なお、OD法ではなく散気板で曝気を行う標準法における調査ですが、曝気の影響の大小と、反応槽から排出される空気中のN2O濃度の関係を以前に確認しました。完全混合槽を仮定できるような反応槽の一区画において、散気板の直上の地点と、散気板から水平方向に離れた複数地点で空気を採取しN2O濃度を測定した結果、N2O濃度はほぼ一定でした。</p>
	16	最下段の追記箇所について、濃度に加えて空気量の算出が必要であるので、1箇所ですべての空気量を測定したとしても、全空気量に換算できないように思います。特に、気体を採取するチャンバーの面積は小さいので、誤差が大きくなるように思います。そもそも、空気の排出面積はどのように求めれば良いのでしょうか？	<p>ご指摘のとおり、全空気量に換算するためには複数地点で空気量を測定する必要があります。複数地点での空気量測定については、6.2、P20で既に記載しておりますが、誤解を避けるためP16でも追記いたします。また、空気の排出面積の説明をP20に追記いたします。</p> <p>なお、空気の排出面積について、国総研の調査では気泡発生の有無を目視で確認し、反応槽の図面と照らし合わせて算出しておりました。</p>
	20	追記文章の違和感。 一点は、『効率のみから』という表現です。酸素供給効率に何らかの情報を加えると『空気発生量が求められる』と読めますが、具体的にそのような方法があるのでしょうか？ODの酸素供給効率は、消費エネルギーあたりの酸素供給(溶解)量のように思いますので、空気量への換算はいずれにせよできないのではないかと思いますのですが…。	『効率のみから』という表現は、実際の空気発生量を調査する必要があるということを意図しての表現でしたが、ご指摘のとおり、何らかの情報を加えることで空気発生量が推定できるように読めてしまうため、『のみ』を削除いたしました。また、『望ましい』も削除しました。
	20	二点目は、『想定される』という表現です。一点目の可否とは無関係に、『のみからでは、できない』のであれば、『できない』で良いように思いますが、いかがでしょうか。	ご指摘のとおりですので、そのように修正いたしました。
	20	『空気排出量(p16)』は、『空気発生量(p20)』と同じことでしょうか？	『空気排出量』に統一いたしました。ご指摘いただいた箇所以外の表記も統一いたしました。
		以上	